令和6年度 やまがた社会貢献基金助成事業 活動報告書

団体名	きびたき長井甦るの会		
事業名	甦るプロジェクト		
助成事業区分	協働助成事業(一般型)自由提案部門		
団体の	長井市	事業費	528, 895 円
所在市町村		うち助成金額	500,000 円
事業実施期間	令和6年5月29日~令和7年2月28日まで		

(事業目的)

山形県には避難者が2月1日現在1,159名暮らしている。避難者支援は減少しているが、長期避難による問題の個別化、多様化している。避難者の自立を促進し、コミュニティの再構築を図ることは、喫緊の課題だ。この事業は、①福島県への帰還者・山形県で暮らす避難者を対象とし酒米づくりの農業体験・交流会を行い、自分たちの「酒造り」を通して生きがい・つながりづくりを行う。

- ②当団体の主力メンバーは避難者を中心に構成しており、当事者の強みやネットワークを活かし、避難者が収穫の喜びを体験し、酒づくりを通して福島県・山形県の地域を超えた交流を行う。
- ③この事業は置賜地区を中心に活動しているが、まだ県内には多数の避難者がいるので、山形県全域に 広める。

年間を通して酒米づくり・農業体験実施。田植え・草取り・稲刈り・天日干し等を昔ながらの手作業で行う。 作業後には暮らしに関する意見交換をかねた交流会を実施。避難者サポートとして、生活の中で感じる良いこと・うまくいかないこと、楽しみや悩みなどを話す場を作り対話の場づくりをおこなう。できた酒米は福島県浪江町から山形県長井市に移住した鈴木酒造長井蔵が酒造りを行い、「甦る」と命名し東日本大震災発生日の3月11日販売開始する。

- ① 草取り交流会 7月6日(土):13:00~15:30 田圃で農業体験。草取りを昔ながらの手作業で農業体験 を行った。作業後は交流会を開催。22名参加
- ② 稲刈り交流会 9月21日(土):13:30~15:30 田圃で稲刈りの予定だったが、前日からの大雨で、急遽、田んぼの稲の生育状況確認後、竹田義一氏の講演、共同代表の鈴木大介から能登半島地震被災地の現況報告会を13:30~15:30 まで行った。67名参加
- ③芋煮会交流会:10月 26日(土)10:30~15:30 最上川河川公園いもに広場で、避難者、支援者(地域住民)と共に収穫祭を祝う山形県の名物いも煮会を行った。26名参加
- ④新酒仕込み体験交流会:11月2日(土)9:30~14:00鈴木酒造店長井蔵で新米「さわのはな」で新酒仕 込み体験を行った。15名参加
- ⑤お菓子作り交流会:2月8日(土)11:00~13:00長井市:伊佐沢コミセンで酒粕を使ったお菓子(ケーキとクッキー)作りを行った。その後、試食しながら交流会を行った。12名参加



① 草取り交流会



②雨の中稲の生育状況確認



③能登半島地震被災地現況報告会

- 1. 県外避難者が暮らす地域で、安心し、自立した生活をするための、活力作りとして、酒米や酒で福島県と県域を越えたつながりにより、地域の交流を深めることができた。また、他市の避難者がチラシを見て交流会に参加されたことで、会が盛り上がり避難者同士や地域住民を含むコミュニティがより一層深まった。
- 2. 事業の実施の中で、減少している避難者のための相談対応も行いました。例えば高齢者で一人暮らしの認知症認知症の男性に交流会に参加して頂き、会場で会話することで、健康面や避難現状での不安に対応し、重篤の場合は、行政・支援団体と共に課題解決を図ることができました。
- 3. 避難者が田植えから稲刈りを手作業で行い、酒米を作っていること、避難者の現状や前に向かう取組みをホームページ等に掲載し広く広報することで、山形県民・長井市民、長井市を訪れる観光客などにも案内することができました。また、鈴木酒造店長井蔵を応援したいと県外から大勢の人が駆けつけ参加して頂きました。しいてはそれが風化を防ぎ、復興事業から観光事業への移行にもつながることだと思います。今年の看板設置は、その意味で大変効果がありました。

長井市や山形県に住む避難者と共に活動したい、応援したいという県外避難者、山形県内外の住民が 農業体験、酒造り体験を通して地域間の交流が作られ、つながりの拡大により関係人口が増加している ので、さらに増やしたい。また、避難者支援等のイベントの情報発信と共に、長井市、浪江町の観光資源を紹介し、アルカディア観光局とタイアップした企画により、更なる関係人口拡大につながる。 情報発信では、避難を継続している方々の状況を伝えることで、避難者支援の理解へ繋げる。 山形県内でも特に置賜地域に避難している方々は高齢化が進み、独居も増えてきた。孤独という課題 をこの事業の交流会を開催し、「地域のつながり」で支えていく。



④収穫祭 芋煮会交流会



⑥お菓子作り交流会



団体概要

団体名 きびたき長井甦るの会 代表者 共同代表 村田 孝

URL https://www.kibitaki-nagai.com 原発事故を経験した私たち日本人は、原発がそこで働く労働者の被 爆や、一度事故を起こせば広大な土地が汚染され、そこに住む多くの人々や動植物の生活が犠牲になることを体験を通して知ることと なりました。そのうえで、それを糧に行われる真の復興とは誰一人 として生活を犠牲にすることのない暮らしと社会を構築することであると考えます。

避難直後、私たちに最大のインスピレーションを与えてくれた長井市レインボープランは台所から出る食料残渣(生ごみ)からコンポストを作り、それを再び農地に投入して市民の台所に安心・安全野菜を届けるという取り組みです。私たちはレインボープランの理念である「循環・共に・土は命のみなもと」を受け継ぐとともに

「No sacrifice(犠牲はいらない)」を理念として付け加えたいと思います。

令和6年度山形県NPO活動促進補助事業 収支精算書

事業の名称	甦るプロジェクト
団体名	きびたき長井甦るの会

1 収入の部 (単位:円)

		(十)下・11)
区分	精算額	内容
県補助金	500,000	令和 6 年度山形県NP0活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入		
自己資金	28, 895	
合計	528, 895	

2 支出の部 (単位:円)

区分	精算額	内容
謝金	65, 000	交流会講師(農業指導、IT機器借用・操作謝礼、 新酒仕込み、お菓子作り)、田んぼ管理料
旅費	7, 200	ガソリン代
印刷製本費		チラシデザイン料、チラシ作成
消耗品•材料購入費	120, 621	事務用品、看板代、稲刈り鎌、交流会時使用の消 耗品等
通信運搬費	5, 950	チラシ郵送(レターパック、切手)
保険料	4, 340	交流会参加者ボランティア保険
使用料	95, 790	交流会会場使用料、会議室賃借料、農機具使用料
人件費	150,000	
(委託費)		
(備品購入費)		
(修繕費)		
補助対象外経費	28, 744	交流会の食糧費
合計	528, 895	